

初級読解教材作成を目指した非漢字系初級学習者の読解過程の分析

著者	桑原 陽子
雑誌名	国立国語研究所論集
号	13
ページ	127-141
発行年	2017-07
URL	http://doi.org/10.15084/00001375

初級読解教材作成を目指した非漢字系初級学習者の読解過程の分析

桑原陽子

福井大学／国立国語研究所 共同研究員

要旨

本研究の目的は、日本語を読む能力が入門期から初級の非漢字系日本語学習者に、様々な日本語の素材を読んでもらい、どのような手がかりを使って語彙や文法の不足を補って情報を得ているのか、その過程でどのような難しさがあるのかを明らかにすることである。20名の調査協力者のインタビューの結果から、非漢字系初級学習者に有用な読む技術を提供するために、次の(i)から(iv)が必要であることが明らかになった。

- (i) 素材に関する背景知識を、学習者の視点で整理する。
- (ii) 日本語の素材の代表的なレイアウトと母語の素材のレイアウトとの違いを明確にし、どの部分に何が書かれているか、どの部分が重要かわかるようにする。
- (iii) 日本語の素材で使われる独特な書き表し方についての情報を提供する。
- (iv) 素材を読むためにポイントとなる重要な漢字・単語・表現を精選し、必要最低限の情報をそれらが実際に現れる文脈とともに提供する*。

キーワード：読解、非漢字系学習者、初級学習者、生の素材

1. はじめに

従来の初級読解教材は、既習の文型・語彙を文章中で確認するにとどまるものが多いが、学習者が実際に読みたいものを読めるようになるためには、「読む必要のある素材から必要な情報を効率よく得る技術」の学習を主眼にした教材が必要である(野田(編)2005)。その技術が具体的にどのようなものかを明らかにするために行った調査に、桑原・山口(2014)、桑原(2015)がある。桑原・山口(2014)では、中国系の初級学習者がホテル検索サイトを読むときの困難点を調査した。その結果、次のような事例が観察された。

- (1) 「シングル」「ダブル」「ツイン」のような部屋のタイプを示すカタカナ語がわからない。また、2人部屋に「ダブル」と「ツイン」の2種類あることがわからない。

「シングル」「ダブル」「ツイン」は部屋のタイプを示す表現としては使用頻度が高く、ウェブサイトホテルを予約しようとするなら、必ず知っておくべき表現である。しかし、中国系の学習者の読む過程を観察すると、それらの表現から情報を正しく得ることが難しいことがわかる。したがって、ホテル検索サイトを読むもうとする学習者には、次のような知識を提供することが必

* 本稿は国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」(プロジェクトリーダー：石黒圭)の研究成果である。また、本稿は次の発表をもとに書き改めたものである。

桑原陽子・野田尚史・内藤満地子・今井多衣子・北浦百代「コミュニケーション指向の初級読解教材作成のためのニーズ調査とその分析」世界日語教育大会2010(台湾 國立政治大學 2010年8月1日)

本研究の調査には、内藤満地子氏、今井多衣子氏、北浦百代氏のご協力をいただいた。

要であろう。

- (2) 「シングル」「ダブル」「ツイン」のカタカナの表現はホテルの部屋のタイプを示しており、「シングル」は1人部屋で「ダブル」「ツイン」は2人部屋である。「ダブル」は2人用のベッドが1つ、「ツイン」は1人用のベッドが2つ設置された部屋である。

また、桑原（2015）では非漢字系中上級学習者を対象に、レストランのクチコミを読む際の困難点について調査を行った結果、たとえば（3）のようなことが明らかとなった。

- (3) 批判的なクチコミを書く場合、「どうなのでしょう」「何なのでしょう」のような疑問形が用いられることがあるが、学習者はそれらの表現が批判的な意見を述べたものであることがわからず、クチコミから否定的な意見を正しく読みとることができない。そのため、批判的なクチコミが疑問形で述べられることを学ぶ必要がある。

いずれの調査でも素材に特化した読みの困難点と、それに基づいた学ぶべき知識と技術がまとめられている。これらの調査からわかることは、学習者にとっての困難点は日本語母語話者には気づかれにくいということである。そのため、学習者が各素材のどこに読む難しさを感じるのかについて詳細な調査をしなければ、本当に読むために役に立つ知識を学習者に提供することはできない。

日本で生活する学習者は、日本語を読む能力の高低にかかわらず、書かれたものから必要な情報を得ることを要求される。文化審議会国語分科会（2010）では、「『生活者としての外国人』に対する日本語教育の標準的なカリキュラム」が提案されており、その中では、たとえば自身の健康を保つために「医療機関で処方箋をもらい、内容を確認する」、消費活動を行うために「商品の表示を読む」「メニューを読む」「レシートを理解する」などのように、読んで情報を得なければならない場面が挙げられている。しかし、生活する上で非常に読む必要の高いこのような素材について、日本語学習者を対象に読みの困難点を調査したものはほとんどない。特に、日本で生活する日本語を読む能力が低い学習者こそ、書かれたものから必要な情報を効率よく得るための知識と技術を必要としているはずだが、日本で生活をしていながら日本語を読む能力が低い学習者を対象とした調査は行われていない。

そこで、本研究では、日本で生活する入門期から初級レベルの非漢字系学習者を対象とし、より生活に身近で読む必要が高い素材を対象にした調査を行う。ここで言う「入門期から初級レベル」とは、口頭表現能力とは切り離れた日本語を読む能力を指す。そのため、調査対象者には、口頭表現能力が高く日常生活に支障がなくても、ひらがな以外ほとんどわからず日本語を読むことが困難な学習者が含まれる。また、同じ入門期の学習者であっても、中国系の学習者は含めず非漢字系の学習者を対象とする。中国系の学習者は、母語の漢字の知識を利用して、かなりの情報を正確に得ることができるからである（桑原・山口 2014）。この調査をもとに以下の（4）（5）について述べ、初級読解教材に盛り込むべき学習項目について考察する。

- (4) 読む力が低い学習者は、未習の語彙・表現が多く含まれる^{なま}生の素材を読む際、そこから情報を読みとるために、どのような知識や技術を用いているか。
- (5) 学習者が個々の素材を読む際に重要な語彙・表現にはどのようなものがあるか。

調査の結果をもとに、(4) については3節で、(5) については4節でまとめる。

2. 調査方法

2.1 調査協力者

調査協力者は、母語の表記に漢字を使用しない非漢字系日本語学習者20名である。調査協力者のうち数名が日本語学習開始以前に中国語（簡体字）の学習経験があったが、非漢字系学習者として扱ってよい程度の漢字の知識しか持っていなかった。日本語を読む能力は、入門期を含む初級レベルであり、この中には聞く能力と話す能力は高いがひらがな以外の文字がほとんど読めない学習者も含まれている。調査時、調査協力者は全員が日本に滞在する生活者であり、その属性は以下の通りである。（下線を引いた項目は最多のものである。）

[職業] 学生8名、教師4名、研修生2名、会社員1名、パート・アルバイト2名、主婦2名、無職1名

[母語] 英語8名、スペイン語3名、フィリピン語2名、フランス語2名、モンゴル語2名、ラオス語1名、マダガスカル語1名、ドイツ語1名、

[ひらがな] ほとんど読める16名、だいたい読める4名

[カタカナ] ほとんど読める12名、だいたい読める2名、あまり読めない4名、ほとんど読めない2名

[漢字] 200字以上4名、100～200字1名、50～100字6名、10～50字2名、10字以下6名、0字1名

2.2 調査材料

日本語学習者が実際に読む必要の高い素材を9種類用意した。具体的には次の通りである。下線は、生活者としての行為の事例の中でも「基本的な生活基盤を形成するために不可欠である、又は安全にかかわり緊急性があるために必要不可欠な生活上の行為の事例」（文化審議会国語分科会2010）とされるものである。

用法が書かれた薬の袋・薬の説明書、スーパーのちらし、食品ラベル、料理のレシピ（餃子や焼きそばの袋の裏面と料理のレシピの投稿サイト）、賃貸不動産情報、店舗（映画館も含む）が発行している紙のスタンプカード、学校からのお知らせ（運動会の案内、学年費返金と旅行貯金の積み立てについて）、インターネットのニュース（株価）、人気アニメの公式ホームページに掲載されているプレゼント情報

調査材料はすべて日本語の^{なま}生の素材か、生の素材をもとに調査者が元の素材にできるだけ似せ

て作ったものである。調査者が作成したのは、印刷の不鮮明さなどを取り除いたり、調査協力者に提示しやすくしたりするために、ルビの付加や漢字の使用制限、平易な文への書き換えなどは一切行っていない。調査材料の素材から、薬の説明書の一部を図1に、賃貸不動産情報の一部を図2に、スタンプカードの一部を図3に示す。

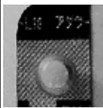
くすりの名前	色・形	用法・用途	効能・効果	くすりに関する注意事項
アダラート L 錠 10mg		1回1錠 1日2回 朝・夕食後 14日分	・心臓へ酸素や栄養を供給している冠血管を広げる薬です。 ・末梢の血管を拡げて血圧を下げるお薬です。	薬の効果が強く現れることがあるのでグレープフルーツジュースを服用しないでください。 めまい等が現れることがあるので高所作業や車の運転には注意してください。

図1 薬の説明書の一部

<p>★マンション★ 1K 小田急線「町田」バス5分 徒歩3分 賃料 6万円 管理・共益費 3000円 コンビニ、ドラッグストア、スーパーまで徒歩5分！</p>

図2 賃貸不動産情報の一部

<p>300円につきスタンプ1個押させていただきます。20個になりましたらこのカードと引き替えに600円値引いたします。</p>
--

図3 スタンプカードの一部

2.3 調査方法

個別にインタビュー調査を行った。調査者は調査協力者に調査材料を1つずつ見せ、素材中の重要な情報が読みとれるかどうかを確認した。その際、重要な表現についてはどう読んだのか、なぜそのように読んだのかを聞いた。読みの困難点やどのような推測を働かせたかを詳しく聞き出すために、インタビューは調査協力者の母語または英語で行った。ただし、読む能力は低い日本滞在が長く日本語での会話に問題がない者に対しては、日本語でインタビューを行った。

3. 未習の語彙を補って読むために学習者が利用する知識

インタビューから、個々の調査材料中に、全員何らかの未習の語彙があったことが確認された。そのため、情報を読みとるために、全員がすべての調査材料において、語や文の意味について推測をしながら読むことが必要であった。学習者の読みの過程を観察・分析すると、3.1から3.3

のような推測を行って読んでいたことがわかった。

ただし、これらの推測は、情報の読みとりの成功につながる場合もあれば、情報の読みとりの失敗、さらには誤読につながる場合もあった。また、知識がないために正しく読めていない事例も観察された。それらについて、以下では、読み成功した例を○、失敗した例を●として示す。

3.1 素材そのものについての知識を利用する

素材そのものについての知識、すなわち、その素材は何のためのもので一般にどのような内容が書かれているのかについての知識があれば、素材中の日本語がほとんどわからなくても、必要な情報が正確に得られることが確認された。その反対に、そのような知識がないために、読みが困難になっている事例も多数観察された。

- (6)○ 店舗が発行しているスタンプカードのシステムを知っており、その知識を利用して、「300円につきスタンプ1個押印」などの説明部分が読める。「～につき」「押印」がわからなくても「300円」「1個」だけから情報が正確に読みとれる。
- (7)○ スーパーのちらしの「お1人様1点限り」の「1人」しかわからないが、購入数に制限がある販売方法を知っており、1人1つしか買えないと推測できる。「先着1000点限り」について「先着」も「限り」もわからないが、限られた個数を売り尽くしたらセールが終わるという売り方が母国にもあるので、それをもとに正しく「先着1000点限り」の意味を推測できる。
- (8)○ プレゼント情報「特製携帯ストラップをもれなくプレゼント！」について、プレゼントがもらえる人数に限りがある場合はそれを示す数字が書かれているはずで、数字が書かれていないことから応募者全員にももらえるのだと推測できる。
- (9)○ プレゼント情報の中で「2008年11月17日19時30分」について、この部分が唯一何時何分まで詳細に書かれた部分なので、これがプレゼント応募のメ切だと推測できる。
- (10)● 薬の用法として、母国では「食事中に服用」が比較的一般的であり、逆に「食間に服用」というのを聞いたことがない。そのため、注意書きに書かれた服用時間「食前」「食後」「食間」が推測できない。
- (11)● 薬の袋の「1日3回14日分」について、経験から「薬は通常3日分しかもらえず、2週間分一度にももらうことはできない」という思い込みがあり、「14日分」がわからない。
- (12)● 運動会が母国になく、学校からの運動会のお知らせの内容が想像できない。
- (13)● 映画の料金割引のシステムが母国と異なり、母国では学生料金の設定や学生割引がないため、割引サービスの情報が正しく読みとれない。
- (14)● 賃貸マンションの料金の仕組み（共益費など）がわからないので、賃貸不動産情報から家賃が正しく読みとれない。

(10) から (14) は、桑原・山口 (2014) でホテル関連の知識の不足が情報の読みとりの困難さにつながった (1) の事例と同様に、情報を得ようとする対象についての知識が不足している

ものである。一方、(6) から (9) を見ると、日本語の表現がほとんどわからないのに、素材についての知識があればかなり正確に書かれた内容を推測できていることがわかる。

3.2 素材の書式についての知識を利用する

素材の構成にかかわる書式、すなわち素材中に情報がどのようなレイアウトで書かれているかについての知識は、どのような情報がどこに書かれているかを推測するのに役立つ。日本語の素材の書式を知っている場合もあれば、母語の書式の知識を援用して読んでいる場合もあった。母語の書式を援用した場合、母語と日本語で書式が異なっていると、間違った推測につながる傾向があった。

- (15)○ 薬の説明書は一般的に「用法」「効能」「注意」の順で書かれているという知識がある。また、効能は比較的短い文で、単語の羅列によって表記されることが多いと知っている。これらの知識を利用して、「用法」「効能」「注意」がどこに書かれているかわかる。
- (16)○ 薬の注意書きは、一般的に患者（薬を受けとる人）名がいちばん上の部分に書かれていることを知っている。
- (17)○ 料理のレシピで、一般的に材料とその分量は、作り方が書かれているところよりも上のほうに書いてあると知っており、材料、作り方がそれぞれどこに書かれているかすばやく見分けられる。
- (18)○ 生鮮商品のパッケージのラベルでは、値段がいちばん大きい文字で書かれているという知識があり、値段をすばやく見分けられる。
- (19)○ 生鮮食品のパッケージのラベルでは、値段の他に産地が明記されていることを知っており、たとえば「北海道産玉ねぎ 1 ネット 290 円」の「北海道」が産地を示していることが推測できる。
- (20)○ 子どもの学校から届くお知らせを見て、書式からフォーマルなものかどうかを見分けることができ、それが子どもに向けて書かれたものか、保護者に向けて書かれたものか、つまり誰が読むべきものかが見分けられる。
- (21)● 子どもの学校から届くフォーマルなお知らせの書式が母国の場合と異なっている。そのため、宛名、送付者名がどこにどのように書かれているかわからない。

どこにどのような種類の情報が書かれているかを把握できる利点は、読み手の知りたいことがどこに書かれているかを見分け、効率よく読むことができることであろう。具体的に何が書かれているかを読みとる前にその場所を特定することは、さまざまな情報が盛り込まれた生の素材を読む際に必要な作業である。

このような読む対象のレイアウトについて門倉（2011: 118）では、「視読解」すなわち「ビューイング（視解）+読解」という観点から、「文字テキストそのものの視覚的意味表現（漢字か仮名かという表記のあり方も含めて）や、活字の大きさ、フォント、色などの諸部分から、全体的なレイアウトに至るまで、文字テキストだけに思えるテキストの中にもビューイングの要素は組

み込まれている」とし、素材のレイアウトも読む上で重要な要素であることを指摘している。たとえば、(15) から (17) は文書のレイアウトの知識がうまく利用されている事例である。また (18) は文字の大きさが読みに有効な手がかりとなった事例である。

一方、このような素材のレイアウトにかかわる書式ではなく、個々の情報の書き表し方が母国とは異なるために、情報を読みとることが難しい事例もあった。

- (22) ● 不動産情報の書き方が母国と異なっており、「1LDK」のような間取りの示し方がわからない。
- (23) ● 不動産情報で、アパート・マンションの所在地について最寄り駅を中心に示すこと（例：中央線阿佐谷駅徒歩 5 分）が母国で一般的でないため、それらを見ても意味がわからない。特に、乗り継ぎを含む書き方は難しく、「小田急線『町田』バス 5 分徒歩 3 分」（図 2）に対しては、「町田」というどこか有名な場所から「バスなら 5 分かかり歩くと 3 分で着く。バスが通らない近道がある。」あるいは「町田からバス停まで 5 分、町田からマンションまで歩いて 3 分」のような読み誤りがあった。
- (24) ● 薬の説明書の「1 回 1 錠, 1 日 2 回」の「回」「錠」「日」の意味と、用法の書き方のルールがわからないので、用法が読みとれない。たとえば「1 回 1 錠」については、「朝 1 錠, 昼 1 錠」のような誤推測があった。
- (25) ● 薬の用法が書かれた薬の袋で、各患者に該当する用法を○で囲んで示すタイプのものについて、○で囲まれたところだけを拾って読むことがわからず、用法が正しく読みとれない。

少なくとも (22) から (25) については、母語での書き表し方の知識が利用できず、その素材に具体的に何が書いてあるかを正確に読みとれなかった事例である。それらの書き表し方については、4 節で述べる各素材を読むための重要な漢字・単語・表現と同様に、学習者に対して情報提供が必要である。

3.3 日本語の文法の知識を利用する

非漢字系の初級学習者にとっては、漢字よりもひらがなのほうが読みやすく、どうしてもひらがな部分に注目することになる。そのため、文末表現と助詞を読む手がかりとする事例が目立つ。文末の表現形式の知識を利用する事例としては、次のものがあつた。

- (26) ○ 薬の注意書きで「ください」などの文末表現を手がかりに、そこに書かれているのが「注意」であると推測できる。手がかりの表現は他に「下さい」「ないでください」「できません」「ことがあるので」である。同時に、「です」が続く部分は「効能」が述べられていると推測できる（図 1 参照）。
- (27) ○ 学校からの運動会のお知らせの「ください」「下さい」から、参加者への注意などが書かれていると推測できる。

- (28)● 学校からのお知らせの「お願いいたします」「ご案内いたします」のような「します」の丁寧な表現である「いたします」がわからず、何度も出てきて目につくため何か非常に重要な意味を持った表現だと考える。なお、区切り方を誤り「たします」が1つの言葉だととらえていた。

助詞の機能についての知識を利用した事例には次のものがあった。

- (29)○ プレゼント情報「通常版 DVD を抽選で 10 名様にプレゼント」について、助詞「で」が手段・方法を示すと知っており、「抽選で」の「で」に注目して、ここにプレゼント当選者の選抜方法が書いてあると推測できる。また、「を」の前に何がもらえるかが書いてあると推測できる。
- (30)○ 「特製携帯ストラップをもらなくプレゼント！」について、「を」の後にプレゼントがもらえる人数が書いてあるはずだと推測し、「もらなく」がそれについての記述だと推測できる。
- (31)○ 料理のレシピで、動詞の活用形に接続する「て」（例：加えて）や「ます」（例：炒めます）を手がかりに、どの部分が動詞かが見分けられる。
- (32)● 料理のレシピ中の「水を少量（大きじ約1杯）加えてください」について、「『を』の後ろは動詞が来る」と考え「少量」を動詞と考えた。
- (33)● 「サイン入りTシャツを先着20名様にプレゼントします」について、「先着」がわからず、抽選方法を示すには助詞「で」が使われるはずだと考えているので、どこに抽選方法が書かれているか推測できない。

これまでの読解教材は、このような文法を文中で確認することが重視されていたと言えるだろう。たとえば、推測が成功した(29)の例のように、手段を示す助詞「で」を学習した後で、素材中から「で」を手がかりにして「抽選で」の意味を推測させたり、どのようにしてプレゼント対象者が選ばれるのかがどこに書いてあるかを探させたりするような練習である。そのような練習にも意味はあるだろうが、それはあくまでも助詞「で」を利用して読むことが前提であり、プレゼント情報の読みとりを目指したものではない。プレゼント情報について読みとることを主眼にするのであれば、どうやってプレゼント当選者が選ばれるのかを読みとるために必要な表現は「抽選で」「もらなく」「先着」である。手段を示す助詞「で」を使うことが前提であれば、(33)のような読みの失敗が生じることになる。

4. 各素材を読むために重要な漢字・単語・表現

学習者の読みの過程を観察すると、素材を読むためにポイントとなる漢字・単語・表現がわかることは、情報の読みとりに非常に有利であることが確認できる(桑原・山口 2014)。本調査では、以下のような事例が観察された。

- (34)○ 「円」を手がかりに、その前の数値が金額を示していることがわかる。

- (35)○ 食品のパッケージの「100g 当り」の「当り」がわかり、そのうしろには 100g の値段が書かれていることがわかる。
- (36)○ 食品のパッケージの「各 90g」の「各」がわかり、商品それぞれの量が 90g であることがわかる。
- 「各 298 円」の「各」がわからず、商品が 2 つ並んでいる写真がついているため、「298 円」が商品 1 つの値段なのか 2 つ合わせての値段なのかわからない。
- (37)○ 生鮮食品のパッケージで「県」を手がかりに産地が表示されていることがわかる。
- (38)○ 学校からの運動会のお知らせについて、タイトル中の「運動会」の「会」から「体育会」だと推測する。「運動会」の「動」が「うごく」という漢字だと知っていることが、「体育会」という推測を後押しする。
- (39)○ 学校からの運動会のお知らせを読む際、「場」「館」の漢字が「場所や建物を示す」ことを知っており、日時、場所などの情報がどこに書かれているかわかる。また、「開会式、閉会式」の「式」の意味を知っており、運動会当日のスケジュールが正しく読みとれる。
- (40)○ 「値引」のうち「引」の漢字の意味を知っており、「600 円値引」や「100 円を割り引きます」が正確に読みとれる。この場合、「値」「割」がわからなくても、数字（金額）との組み合わせから正しい情報の読みとりが可能である。
- (41)○ 「様」が丁寧さを示す呼称であることを知っており、その前には人の名前や客に関する言葉が来ると予測できる。
- (42)○ 不動産情報で「西別院駅より徒歩 8 分」の「徒歩」はわからないが「歩」は「歩く」だとわかるので、駅からマンションまで歩いて 8 分だと読みとれる。ただし「より」と「から」が同じ意味とはわかっていなかった。

これらのほとんどの場合、漢字の読み方がわからなくても、正確にその意味が理解されており、漢字の発音ができることと、その意味が理解できることは別であった。また、(40)の「値引」「割引」の「引」の例のように、熟語として学習していなくても、その熟語のうちポイントとなる漢字さえ知っていれば、情報を得られることがわかる。

一方、ポイントになる漢字や単語がわからないため、正しく情報が読みとれなかった事例も多数見られた。

- (43)● 「先着」がわからないので、スーパーのちらしに書かれた「先着 1000 点限り」がわからない。
- (44)● 「点」が商品の個数を示す助数詞だと知らず「点 = ポイント」だと考え、「先着 1000 点限り」はその商品を買えばポイントカードに特別に 1000 ポイントが付加されると誤解する。また、「お 1 人様 2 点限り」はその商品を買うとポイントが 2 倍になると誤推測する。
- (45)● スーパーのちらしの「お 1 人様 1 点限り」を「1 つ買ったなら 1 つもらえる」のように推測する。

- (46) ● 「限り」がわからないので、「9/24 限り」から特売日が何日か正確に読みとれない。「9/24 限り」については「9月24日から」という誤推測があった。
- (47) ● 「4割引」の「割」がわからず全体の意味もわからない。あるいは、「割」がわからないが「引」がわかるので「割引期間が4日間」「1人4個まで買える」「4つ買ったら割引になる」「4%割引」という誤推測があった。
- (48) ● 牛肉のラベルの「国産」がわからず「国」から「外国」と誤推測した。「和牛」を知っており「国産牛には『和』という漢字がついている」という思い込みがその誤推測を後押ししている。
- (49) ● 「ください」を「下さい」と表記することを知らず、「下さい」について、「下」という漢字の意味から、「何かよくないこと」について述べていると推測する。
- (50) ● 「敷金礼金なし」の「なし」が「ない」と同義であることがわからない。
- (51) ● 学校からのお知らせの中に書かれた「上履き」が何かわからない。自分の子どもの通っている学校のある地域では、室内で履く靴のことを「中ズック」と別の名前で呼んでいるため。
- (52) ● 映画館のスタンプカードに書かれた「このカードはご本人様のみ有効とさせていただきます」の「本人」について、「本」(book)と「人」(person)の組み合わせでa booking person (予約係)と推測する。また、「本人」を「日本人」と誤って推測する。
- (53) ● 料理のレシピで「小口切りにした万能ネギを乗せて完成♪」について「ネギを乗せて音楽を流す」と解釈。「♪」が示す意味が理解できなかった。
- 「完成」はわからないが♪があるからできあがりなのだろうと推測する。

情報の読みとりのために重要な漢字・単語・表現は素材によって異なっているので、それらを素材ごとに整理することが必要である。素材ごとの重要な語彙の調査は、すでにいくつかの研究で行われている。たとえば、子どもを持つ外国人保護者にとって子どもが通う小中学校からの配布物の読みが非常に困難であることは知られており、学校配布物において出現頻度の高い語彙の調査がある(地引 2013)。特に、学校配布物には学校という特定の文脈においてのみ使う「学校カルチャー語彙」(李 2016)が存在するため、重要な漢字・単語・表現の整理は欠かせない。ただし、(51)の事例のように学校に関わる語彙にはその地域独特のものがあり、それが語彙の選定を難しくしている。

また、非漢字系の学習者を対象とした漢字教材の中には、各生活の場面で読む必要のある素材、たとえばゴミ収集の日程表や電気ポット、炊飯器などの電気製品のボタンの表示など、それぞれの素材ごとに学ぶべき漢字を整理したものがある(高島・中河 2012, トヤマ・ヤポニカ 2013, 『生活の漢字』をかながえる会 2011)。『漢字だいじょうぶ!生活の中で学ぶ漢字のツボ』(トヤマ・ヤポニカ 2013)では、電気製品の写真等、実際に漢字がどのように使われているかがわかる写真が教材中にあり、生の素材から情報を読みとることが強く意識されている。

しかしながら、このような語彙や漢字の調査は、調査対象の素材がまだ限られており、さらに

多様な素材を対象に調査を行う必要がある。その上で、実際に学習者にそれらの素材を読んでもらい、情報を読みとるために必要な漢字・単語・表現が何かを学習者の視点で整理すれば、より有用な読む手がかりとなる情報が精選されるはずである。

なお、(53)の料理のレシピでは、「♪」のマークの解釈について誤解があった。調査材料のレシピは料理のレシピの投稿サイトのもので、一般の人が自由に投稿できるものである。桑原(2015)や野田・穴井・桑原・白石・中島・村田(2014)では、グルメサイトのクチコミ中に使われる絵文字や顔文字が読み手に必ずしもよい印象を与えないことを指摘した。本調査では、1例ではあるが、記号が何か特別な意味があることを示していると読み手に誤って受け取られる事例があった。このような誤読を防ぐためには、♪のようなマークが投稿サイトでどのように使われているかについての知識と、少なくとも料理のレシピにおいては実質的な意味を持たないことがわかることが必要である。

5. 本研究のまとめ

5.1 読むために必要な知識

調査の結果、読むための知識と技術として、(54)から(57)の項目を整理し、学習者に提示する必要性が示された。

- (54) 素材に関する背景知識を、学習者の視点で整理する。
- (55) 日本語の素材の代表的な構成(レイアウト)と、母語の素材のレイアウトとの違いを明確にし、どの部分に何が書かれているか、どの部分が重要かがわかるようにする。
- (56) 日本語の素材で使われる独特な書き表し方についての情報を提供する。
- (57) 素材を読むためにポイントとなる重要な漢字・単語・表現を精選する。

特に、今回の調査からは、(54)(55)が非常に重要であることが示された。(54)の素材に関する背景知識については、桑原・山口(2014)でも確認されている。一方、(55)のレイアウトの重要性は、本研究で生活に密着した多様な素材を調査材料に用いて、読む力が低い学習者を対象に調査を行ったことで明らかになった。(15)の菓の説明書の読みは、その代表である。(15)は、漢字・単語・表現がほとんどわからない場合でも、素材のレイアウトが1つの手がかりとなって、どこに何が書いてあるかが正しく推測できた事例である。もちろん、(26)の「ください」「です」のような文末表現も手がかりの1つであり、レイアウトだけから正しい推測が導かれたわけではないだろう。しかし、文字から情報を得る力が低い学習者にとっては、このような素材に関する背景知識、書式についての知識は、情報を読みとるためのかなり重要な手がかりとなることは確かである。そして、それらがわかった上で(56)のような特徴的な書き表し方や、(57)のような重要な漢字と単語の知識が加われば、情報の読みとりが非常に効率的に行われることが観察された。逆に、漢字や単語を知っていても(54)(55)の知識が不足していれば、情報の読みとりが困難になる事例が多数見られた。(54)(55)の知識が、日本語を読む以前に母語で与えられれば、読みの効率は飛躍的に高くなるであろう。

本研究の調査で明らかになった学習者にとっての読みの困難点は、母語話者に気づかれにくいものが多い。たとえば、(54)の素材の背景知識に関するものとしては、(10)の薬の服用方法が挙げられる。母国で薬を食事中に服用することが一般的で、食後、食間に服用することにすぐ思い至らない場合、薬の用法の読みとりは困難になる。(55)のレイアウトが読みの困難さにつながった事例としては、(21)の学校配布物がある。

(56)については、(23)の不動産情報の書き表し方が挙げられるであろう。最寄り駅を中心に所在地を示すことを知らないために、「中央線阿佐駅バス5分徒歩4分」のような情報の読みとりが学習者にとって予想以上に困難であることが示された。

(57)の各素材を読むために重要な漢字・単語・表現では、たとえばスーパーの特売のちらしの重要な表現には「各」「限り」があることが明らかとなった。「各」「限」は、従来の漢字教育のシラバスでは、スーパーのちらしとは結びつきにくい。体系的に漢字を学ぶ教材の1つである『基本漢字 500 BASIC KANJI BOOK VOL. 1』(加納他 2005)のシリーズでは、「各」「限」ともに『漢字 1000Plus INTERMEDIATE KANJI BOOK VOL. 1』(加納他 1997)が初出であり、「各」は「各分野、各都道府県」のように接頭辞として学び、「限」は「期限」という熟語を構成する漢字として学ぶことになっている。『新にほんご〈生活の漢字〉漢字み〜つけた』(『生活の漢字』をかんがえる会 2011)では、「各」はコンビニの看板中の「各種公共料金窓口」で、「限」は生鮮食品のラベル中の「消費期限」「賞味期限」と電気料金振込依頼書中の「早収期限日」「本書取扱期限日」などの中で紹介されている。特に「限」はどちらの教科書でも「期限」という漢字熟語の構成要素の抜いで、「限り」は取りあげられていない。このように、「各」も「限」も入門期の学習者にとって読む必要の高いスーパーのちらしとは切り離された文脈での学習である。

さらに、本調査で生鮮食品のラベルに書かれた消費期限を正しく読みとった際に、「消費期限」という語を手がかりにした事例はなかった。「消費期限」は『漢字だいじょうぶ!生活の中で学ぶ漢字のツボ』(トヤマ・ヤポニカ 2013)でも取りあげられているが、日付の表記のみから消費期限を正しく読みとることが可能であり、消費期限を読みとることだけを考えるのであれば、「消費期限」は必須の表現ではないと言える。このような日本語を母語とする日本語教師に気づかれにくい読みの困難点を明らかにし、学習者にとって有用な情報を提供するためには、各素材について今回のような調査を行うと同時に、非母語話者の日本語教師の視点を取り入れる必要があるだろう。

5.2 読むための知識の整理

このような読むために必要な知識は、どのように整理して学習者に提供すれば有用な情報になるのか。特に(56)(57)の言語に関する情報を精選し学習者に提示するにあたって留意すべき点について、次の3つを提案する。

まず、漢字や単語を単独で学ぶのではなく、素材中にどのような表現の形式の中で現れるのかについての情報も併せて提示することである。たとえば、(45)(46)のスーパーのちらしに出てくる「限り」を例にとると、(58)のような解説が考えられる。スーパーのちらしで見られるまとも

た表現「お1人様1点限り」や「9/24 限り」の意味やその構造の解説の中で、「限り」の意味や用法を学べるようにする。

- (58) 「お1人様1点限り」は、1人あたり1つしか買えないという意味であり、「お1人様」に続く「[数字]点」が商品数を示し、そのすぐ後の「限り」と合わせて、1人が購入できる商品の数の制限を示す。また、「9/24 限り」のように日付の後ろに「限り」があれば、特売日はその日のみであることを示す。

もしこのような情報がなく、「『限り』は制限を表す」という知識だけを提供しても、読む過程でそれが生かされにくいことが予想される。なぜなら、スーパーのちらしは文字の大きさ、色、デザインなどが多様な上に情報量が多い。その中で素早く情報を得るためには、出現頻度の高いパターンを持った表現形式で学習しなければ、他の文字情報と見分けるのに時間がかかり非常に効率が悪いからである。

2番目に、必要最低限の情報を学習者に提示することである。たとえば、(24)の「薬の注意書き」の薬の用法を例にとると、上で述べたように、「回」「錠」「日」を個別に覚えるのではなく、(59)のような解説を学習者に提供すべきであろう。

- (59) 「1日2回」のように「1日」から始まる場合は、1日に飲む回数が書かれており、「1回1錠」のように「1回」から始まる場合は、1回に服用する薬の数が書いてある。「1日」の後に続く数字が1日に服用する回数で、「1回」の後に続く数字が1回に服用する量である。

この場合、「4日4回」「2回4錠」という書き方は存在しないので、「1日」と「1回」さえ読めれば用法の読みとりは可能になる。つまり、「1回1錠」の「錠」に関する知識は、「薬の用法で『1回』といっしょに使われる複雑な字で、錠剤の個数を示す助数詞」程度で十分であり、薬の用法では決して使用されない「銀」や「鉄」と区別できる必要はない。さらに、「錠」以外の助数詞「個」「カプセル」「C」「包」も学ぶ必要はなく、それらを区別できるようになる必要もない。入門・初級レベルで生の素材から効率よく情報を得ることを目指すのであれば、このような思い切った省力化を考える必要があるのではないだろうか。

また、「読むための必要最低限の情報」という点から考えると、漢字語彙の場合、その意味を理解することを重視し、その読み方(発音)がわからなくても必要な情報が読みとれるようになることを目指すべきであろう。実際、4節で述べたように、本研究において、漢字の意味を正しく理解し正しく情報を読みとっていた場合、必ずしもその読み方まで正しく知っていたわけではなかった。

3番目に、読む対象の文字情報を実際の素材に近い形で学習者に提示することである。たとえばスーパーのちらしであれば、実物と同じように読みとるべき文字情報と商品の写真やイラストが含まれた画像を使う。実際のちらしは文字の大きさや色が多様であり、門倉(2007, 2011)が指摘するレイアウトや文字種、文字の大きさが情報を読みとる上で重要な要素である。(36)の読みの失敗例では、写真で掲載されている商品の数が2つだが、値段は1つあたりのものが記載

されており、写真が逆に読みの失敗を引き起こした事例である。このように、生の素材に存在する要素がすべて含まれた中から必要な情報を読みとれるようになることが、生の素材を読むためには不可欠のほうである。

同様に、(24)の薬の注意書きであれば、読みとろうとする薬の用法が、薬の説明書全体の中でどの位置にどのぐらいの文字の大きさを書かれているかといったレイアウトに関わる情報も、読みの手がかりとなる。したがって、「1日1回 1回1カプセル」という文字列だけを読む対象と考えるのではなく、薬の説明書全体の中で用法がどこに書かれているのかをすばやく見分け、それを読みとることができるような知識が必要であろう。

5.3 今後の課題

日本で生活する初級学習者は、生活上の必要に迫られて読まなければならないもののジャンルが多様である。そのため、それらの素材について、どのような情報を学習者に提供すれば効率よく読めるようになるのかの調査が不足している。さらに、文字情報だけでなく背景知識、レイアウトまでもが読む手がかりとして重要であるので、それらを含めた読解過程の詳しい調査を継続して行い、日本語母語話者の教師には気づきにくい読みの困難点を明らかにすることが必要である。

同時に、母語話者の教師が「学習者にとって有用な情報だ」と思い込んでいたものが、実はそれほど役に立つ情報ではなかったということがないか、学習者を対象とした読解過程調査からの確かなデータの裏付けによって示されることが求められる。これまでも生活上必要な読みを支えるための語彙や漢字の調査が行われており、研究の蓄積が進んでいるが、それらのデータの中で何が学習者にとって必要な情報なのかについては、母語話者の思い込みで選択されている場合も少なからずあると推測されるからである。

本研究の調査中、調査協力者からは「これをもっと早く知りたかった」「前からわからなくてぜひ知りたいと思っていた」「役に立つ」という感想も聞かれた。本当に読む必要のある素材を用意すれば、ひらがな以外ほとんど読めない学習者にいきなり生の素材の読みに挑戦させたとしても、それほど負担にはならないことも実感できた。読む必要の高い素材について、さまざまな学習者を対象とした丁寧な読解困難点の調査を積み重ね、読みたいものが読めるようになるための必要な情報の整理を進めたい。

参考文献

- 文化審議会国語分科会 (2010) 『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について』 http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/nihongo_curriculum/pdf/curriculum_ver09.pdf (2017年1月30日確認)
- 地引愛 (2013) 「学校配布物から情報を得るために必要な語彙の探索—使用頻度の高い語彙に注目して—」『学習院大学国語国文学会誌』 56: 76-92.
- 門倉正美 (2007) 「リテラシーとしての〈視読解〉—「図解」を手始めとして」『リテラシー』 3: 3-18.
- 門倉正美 (2011) 「コミュニケーションを〈見る〉—言語教育におけるビューイングと視読解—」『早稲田大学日本語教育学』 9: 115-120.

- 加納千恵子・清水百合・竹中弘子・石井恵理子 (2005) 『基本漢字 500 BASIC KANJI BOOK VOL.1 第4版』東京：凡人社.
- 加納千恵子・清水百合・竹中弘子・石井恵理子・阿久津智 (1997) 『漢字 1000Plus INTERMEDIATE KANJI BOOK VOL.1 第2版』東京：凡人社.
- 桑原陽子 (2015) 「非漢字系日本語学習者がレストランのクチコミから情報を得るときの方略と困難点」『国立国語研究所論集』9: 101-119.
- 桑原陽子・山口美佳 (2014) 「中国系初級日本語学習者がホテル検索サイトを読むときの困難点」『国立国語研究所論集』8: 109-127.
- 李曉燕 (2016) 「小学校配布プリントにおける暗黙的な『日本の学校カルチャー』の分析—外国人保護者に対する日本語支援の視点から—」『2016年度日本語教育学会秋季大会予稿集』186-191.
- 野田尚史 (編) (2005) 『コミュニケーションのための日本語教育文法』東京：くろしお出版.
- 野田尚史・穴井宰子・桑原陽子・白石実・中島晶子・村田裕美子 (2014) 「ヨーロッパの上級日本語学習者によるウェブサイトのクチコミの解釈—文化の相違による解釈の違い—」『ヨーロッパ日本語教育』19: 245-250.
- 『生活の漢字』をかかんぐる会 (2011) 『新にほんご〈生活の漢字〉漢字み〜つけた』東京：アルク.
- 高島智美・中河和子 (2012) 「生活者のための漢字教材の開発—識字教育の枠組みでの学びをめざして—」『富山大学留学生センター紀要』11: 11-21.
- トヤマ・ヤポニカ (2013) 『漢字だいじょうぶ! 生活の中で学ぶ漢字のツボ』東京：ココ出版.

Analysis of Non-Kanji Culture Japanese Elementary Proficiency Learners' Reading Process to Create Teaching Materials for Beginners Fostering Reading Comprehension

KUWABARA Yoko

University of Fukui / Project Collaborator, NINJAL

Abstract

This study investigates Japanese learners with elementary proficiency and a limited ability to read Japanese and to extract necessary information from a variety of authentic materials written in Japanese along with the comprehension difficulties that arise while reading. The native languages of the twenty participants are not written in Kanji. The results showed that the following are necessary to achieve mastery in reading Japanese.

- (i) The organization of background knowledge for each of the authentic materials from the learners' perspectives.
- (ii) The clarification of the differences between a typical layout of Japanese materials and that of learners' native languages, what contents are written in which parts, and which part is the most important.
- (iii) The presentation of information about characteristic Japanese expressions in each of the materials.
- (iv) The selection of important Kanji, words, and phrases that are useful clues for reading and arrangement of the minimum information on the clues relevant to the contexts in which these are used.

Key words: reading comprehension, elementary proficiency learner, learner from non-Kanji cultures, authentic materials